



おかえりなさい！ おくひだ1号



都竹市長から運転士へハンドルが手渡されました

「ロストラインフェスティバル」の実行委員会（市、NPO法人神岡・町づくりネットワーク）は、市の大切な資源である旧神岡鉄道の財産を活かしたまちづくりや廃線利活用の取り組みを全国に発信しようと、4月8日（土）、9日（日）に神岡町で「ロストラインフェスティバル」神岡」を行いました。

イベントでは、旧神岡鉱山前駅の車庫に保管されていた旧神岡鉄道の客車「おくひだ1号」が廃線以来10年ぶりに走行し、終点の旧奥飛騨温泉口駅までの約3キロをゆっくりと走り抜けました。その姿を一目見ようと旧駅構内や沿線には市民や鉄道ファンなど約5000人が駆けつけました。

旧神岡鉱山前駅で行われた出発式では、都竹市長から運転士へハンドルなどが渡されました。ふるさとこども大使による「こども駅長」が出発進行の合図を行い、おくひだ1号はゆっくりと出発。大きな汽笛が神岡町にこだましました。途中の旧神岡大橋駅で廃線の年に生まれた神岡小学校4年生を乗せて、旧奥飛騨温泉口駅へと向かいました。

おくひだ1号が旧奥飛騨温泉口駅に姿を見せると、待ち受けた多くの住民から「おかえりなさいー」などと大きな歓声や拍手が上がりました。ホームで神岡中学校吹奏楽部による神岡鉄道のテーマソング「手づくりの汽車に揺られて」が演奏



運転席からの線路を望む



出発進行の合図を行うこども駅長

される中、おくひだ1号が旧奥飛騨温泉口駅に到着しました。当イベントの鈴木実行委員長は「10年ぶりに神岡のシンボルともいえるおくひだ1号が帰ってきました。レールマウンテンバイク事業と合わせて、さらなる誘客につなげていきたいと思っています。開催にあたり、協力してくれた皆さんに心から感謝しています」と話しました。

都竹市長は、「おくひだ1号が10年ぶりに走る姿や汽笛の音は神岡町民のみならず、多くの方に勇気と活力を与えるものと思います。神岡が全国的に広がる廃線の利活用の先進地となることを期待しています」と話しました。

イベントでは、廃線の利活用について全国的なネットワークを構築し連携しようとして、日本ロストライン協議会が設立されました。

設立総会に先立ち、鉄道ファンとして知られる石破茂衆議院議員による基調講演「地域資源の活用と地方創生」が廃線利活用の可能性」が行われました。「全国には廃線が多くあり、どの地域もマインスのイメージを払拭し、

大切な地域資源として利活用しています。日本の真ん中ともいえる飛騨市で地域の資源を最大限に活用したイベントが開催され、非常に喜ばしく思います。また、日本ロストライン協議会が設立され、廃線利活用という分野に大きな期待をしています。地域資源の活用の可能性は無限です。飛騨市の宝が皆様の誇りと地域の発展につながることを期待しています」と話しています



市内の情報を織り交ぜながら講演する石破氏



沿道には多くのファンが集まりました

した。

設立総会は同町の船津座で行われ、北海道から宮崎県まで全国の廃線利活用団体が集いました。会長には同法人の鈴木理事長が選ばれました。また、廃線を活用するため、全国的な機運を高め、情報交換・発信、連携を進めていく方針を決めました。また、同じように廃線を活用する団体をさらに全国から募集することも合意しました。

総会の後には、事例発表会が行われ、それぞれの取り組みや今後の展望・目標を共有しました。

発表会の後には、交流会が行われました。参加者が交流を深め、利活用に向けての気持ちを一層強くしました。



参加した利活用団体の皆さんとの集合写真



たくさんの方に見守られながら帰還するおくひだ1号



有限会社かんや様が創業80周年記念として、市営バス「かみおか循環乗合タクシー」を、「おくひだ号」風にラッピングしていただきました